



写真：
**「乗り入れ
授業」**

水沢中学校

↓
水沢小学校
馬場小学校

写真の説明は 6 ページ

巻頭言

「リアクション王」

学校教育課学事係 山岸 一朗

十日町市の小中一貫で目指す「自己有用感の育成」「居場所づくり」「絆づくり」「居心地のよい学級づくり」を考えると、過去に担任していた5年生のクラスのことが思い出されます。ある日、A君が登校できないという連絡が入りました。校内でいろいろな助言をもらいながら、家庭訪問を繰り返したり、学校に行けない思いを引き出そうとしたりしましたが、なかなか改善の糸口が見出せないまま数週間がたちました。

その当時の私の授業は典型的な教師主導で、特定の子どものしか発言せず、面白くない授業だったと思います。子どもたちに「どうしたらみんなが手を挙げて発言できるようになるかな?」と問うと、「そんなこと言われてもわかんない。」という反応でした。

そこで「手を挙げて発言しなくても、いいなと思う発言に『賛成』という声でもいいし、拍手でもいいし、応援することはできないかな?」と投げかけると、「それだったらできるかも」という反応でした。子どもたちがそれぞれの方法で応援し合い、手を挙げて発言する子どもも少しずつ増え、子どもの声がよく聞こえる授業になっていきました。

ある日「A君が午後から登校できるかもしれない」という連絡が入り、「A君が緊張しないよう自然な雰囲気迎えよう」と子どもたちに伝えました。5限が始まり、A君の姿が廊下に見えたたん、「A君だ」「ほんとだ」「Aちゃんよく来た」「Aちゃん偉い」「Aちゃん最高!」「Aちゃんかっこいい」という声が掛かりました。私はしまったと思いました。A君が頭を掻きながら「いや～それほどでも～」と言いながら入ってくる姿に教室中が大爆笑となり、A君も一緒に笑っていました。A君は、間もなく朝から登校するようになりました。その後のA君は、自分から応援のパターンをいろいろと考え、今風に言えば「クラスのリアクション王」というような存在になりました。私の指導技術は相変わらずでしたが、子どもたちが授業を楽しくしてくれた気がします。A君もそれから1年間、日々みんなに笑いを振り撒き、笑顔で卒業していきました。

互いの発言を応援しあうことが、A君も含めた発言が苦手な子どもたちの授業における居場所をつくり、多少ピントのずれた反応でも認めてもらえるという絆につながり、居心地のよい学級になっていったのではないかと身勝手に思っています。

小中一貫教育

十日町市の小中一貫教育は、規模の大きな中学校区から、小規模なところまでいろいろな中学校区があります。それぞれの中学校区の特長を生かした取り組みがなされています。今回は、2中4小学校の拡大中学校区と1小1中学校の中里中学校がそれぞれの中学校区の特性を生かした研修を行っていることを紹介します。

■ 拡大中学校区小中学校間の系統的な指導にかかわる研修

今年度は8月3日(木)に標記の研修が行われました。拡大中学校区ではこれまでも家庭学習の習慣化を目指し、9年間の発達に応じた取組を行ってきました。

講演 演題「タブレット端末を活用した家庭学習の取組」

講師：十日町市教育委員会 指導主事 郡司 哲朗 氏

グループ討議 協議題「家庭学習の習慣化を目指した小中連携した共通の取組の検討」

グループ討議の記録を見ると、講演の中身をもとにこれまでの各学校の取組の中で見えてきた課題や解決策がたくさん示されており、多くの学校から構成される中学校区であることよさを生かした話し合いの様子が見られました。

また、中学校区の共通取組事項の「家庭学習協調ウィーク」の取組でも、保護者宛ての案内のひな形や各学校のカード等、各学校の取組の成果と課題の共有など、大所帯の強みを生かした取組がなされています。



■ 中里地区 教育フォーラム

十日町市PTA中里地区連合会、中里地区合同学校保健委員会、十日町市青少年育成市民会議中里地区育成会が主催の研修会です。

今年度は、8月5日(土)に中里なかよし保育園を会場に、保育園の参観日に小中学校の職員や保護者、地域の方も一緒になり、90名が参加して行われました。

講演 演題「よい子」を育てる行動科学

—保護者、園・学校、地域…みんなで協働する教育の視点—

講師 県立吉田特別支援学校 校長 森田 隆行 氏

同一中学校区の保育園・小・中学校の保護者と職員が、一緒に講演を聞くということは、ただ単に同じ情報を得るだけでなく、同じ方向性で協働できる視点を持てるということになります。とても貴重な機会であったと思われます。

これも3つの園・学校というコンパクトな中学校区の強みを生かした連携による取組であると思います。



この2つの中学校区以外でもそれぞれの中学校区のよさ・強みを生かし、それぞれの中学校区の『つながり』を大切にした取組が行われており、十日町市の小中一貫教育の特長となっています。

教育相談班より

■ 1学期の「不登校・いじめ認知」の状況

○不登校の状況（令和5年4～7月）

※（ ）内は、昨年度同時期の値

	小学生	中学生	小中 計
不登校児童生徒の割合	0.38% (0.59%)	3.17% (3.46%)	1.32% (1.54%)

小中学生ともに、不登校児童生徒の割合は昨年度より抑えられており、不登校数も昨年度同時期に比べ**小学生 0.62 倍**、**中学生 0.87 倍**と低くなっています。引き続き、**課題予防的生徒指導**によるきめ細やかな対応・支援をお願いします。

<課題予防的生徒指導> ※「生徒指導提要」より

- 課題未然防止教育・・・全ての児童生徒を対象
 - ・児童生徒の **SOS を出す力の獲得**
 - ・教職員の児童生徒の**変化に気付き SOS を受け止める力の向上**
 - ・教育相談体制の充実
- 課題早期発見対応・・・一部の児童生徒を対象
 - ・休み始めの段階でのアセスメント（スクリーニング会議）
 - ・**教職員、SC、SSW、保護者の連携・協働**による支援の開始



○いじめ認知の状況（令和5年4～7月）

※（ ）内は、昨年度同時期の値

	小学生	中学生	小中 計
いじめ認知件数	55 (41)	36 (29)	91 (70)
1,000 人あたりの認知件数	26.0 (18.5)	33.6 (26.4)	28.5 (21.1)

小中学生ともに、いじめ認知件数及び割合は増加傾向であり、1学期末現在、認知件数は昨年度同時期に比べ**小学生 1.34 倍**、**中学生 1.24 倍**です。今後も、積極的な認知とともに、**課題予防的生徒指導**による取組・対応をお願いします。

<課題予防的生徒指導> ※「生徒指導提要」より

- 課題未然防止教育・・・全ての児童生徒を対象
 - ・道徳や学級活動等における**児童生徒主体のいじめ防止の取組**の実施
- 課題早期発見対応・・・一部の児童生徒を対象
 - ・いじめの予兆の発見と迅速な対処
 - (アンケート、面談、健康観察等による**気付き**と被害児童生徒の安全確保等)



■ 特別支援教育に関する校内支援体制の充実 ～校内委員会の機能強化～

校長のリーダーシップの下、児童生徒について幅広く把握し、必要な支援を組織的に対応するための**校内支援体制を充実**が求められています。具体的には、**通常の学級の中でできる方策**※を十分に検討した上で、通級による指導や特別支援学級の必要性を検討していくという**段階的な検討のプロセス**が大切です。

※ 方策)

学級全体に対してわかりやすい授業の工夫

ICT を含む合理的配慮の提供

十分に検討！

個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用

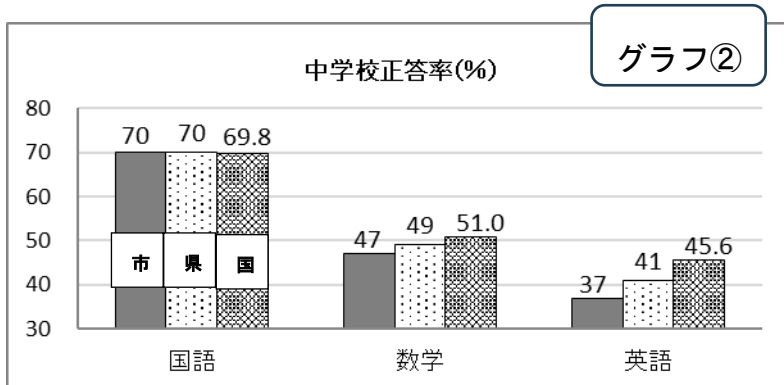
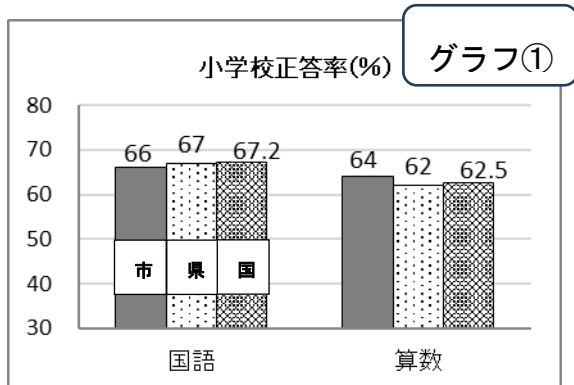
専門家等と連携した支援

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

令和5年4月に実施した「全国学力・学習状況調査（対象：小学6年生、中学3年生）」の十日町市の結果をお知らせします。本年度は小学校2教科・中学校3教科の調査が行われました。

この調査は、学校における児童生徒への教育活動の充実や、学習状況の改善等に役立てることを目的にしています。

学力状況（正答率）について（小学校＝国語・算数 中学校＝国語・数学・英語）



小学校の正答率では、国語 66%（県：67%・国：67.2%）、算数 64%（県：62%・国：62.5%）、で、国語は全国や県と同程度、算数はやや上回りました（グラフ①）。
中学校の正答率では、国語 70%（県：70%・国 69.8%）、数学 47%（県：49%・国 51.0%）、英語 37%（県：41%・国 45.6%）でした。国語では全国や県と同程度でしたが、数学・英語では、全国や県を下回りました（グラフ②）。

1 今後の取組について

学力の定着や向上は、学校教育の中でも重要な課題であり、学校の役割の1つです。市教育センターでは、令和4年度から「居心地のよい学級づくり」事業に取り組み、各学級が全ての児童生徒にとって居心地がよく安心して生活でき、互いに学び合い高め合う集団になるように支援しています。

学級内に、お互いを認め支え合う関係が広がることで、子どもたちは安心して生活することができ、学習意欲や自己実現に対する意欲が高まります。

こうしたことから各学校では、日々の学級づくりに学校全体で工夫を凝らしながら取り組んでいます。そしてそれを土台として、日々の授業で子どもたちが「分かった」「できた」と実感できる授業づくりを行っています。今後も、学級づくりと授業づくりを学校の両輪として位置づけ、教育活動を推進し、引き続き学力向上を目指していきます。

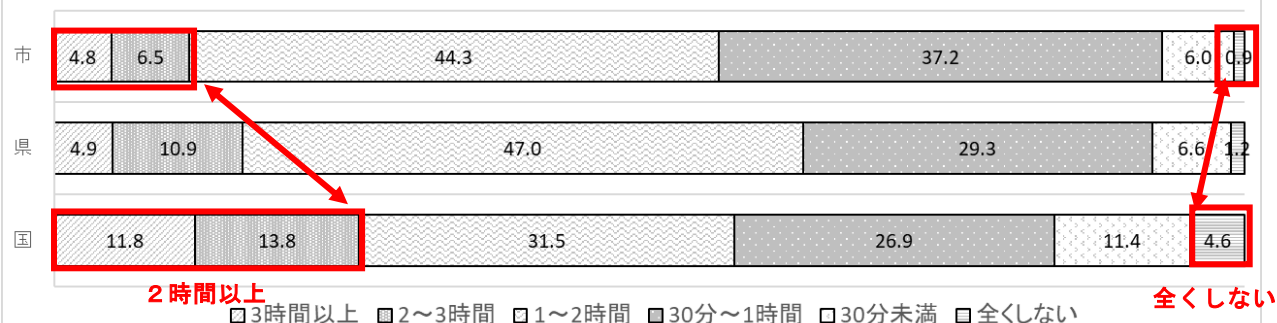
2 家庭学習について

次のグラフ③と④は、平日の家庭学習時間の割合を示しています。全国や県と比較すると、市の家庭学習時間は少ない傾向にあります。しかし「全くしない」という児童生徒の割合は低くなっている傾向もあります。学力の定着のためには、家庭学習は重要な要素です。特にインターネットやSNSを長時間使ってしまう、家庭学習が疎かにならないように気を付けなければなりません。望ましいメディアとの付き合い方を身に付けたり、自分をコントロールしたりできるよう、学校と家庭とが手を取り合い連携した取り組みを進めていくことが重要です。

※グラフは無回答を除いているため、100%にはなりません。

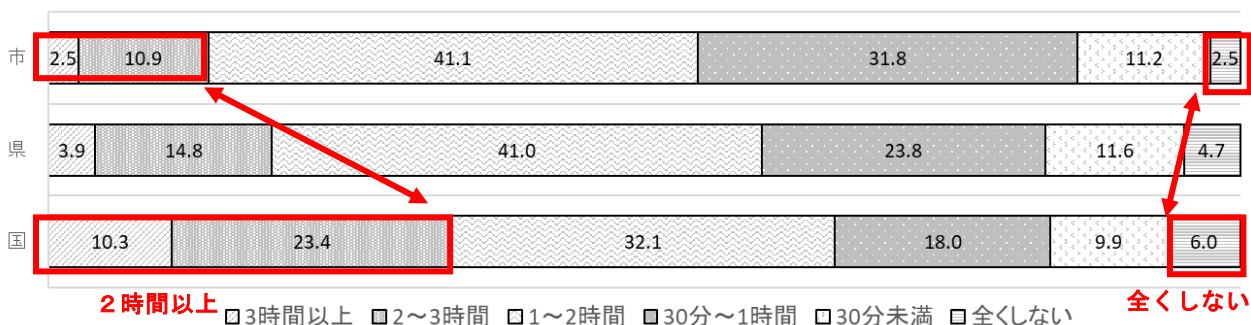
グラフ③

【小学校】学校の授業時間以外で、月～金曜日に一日当たりどのくらい勉強しますか。
(塾や家庭教師を含む。)



グラフ④

【中学校】学校の授業時間以外で、月～金曜日に一日当たりどのくらい勉強しますか。
(塾や家庭教師を含む。)



3 読書時間について

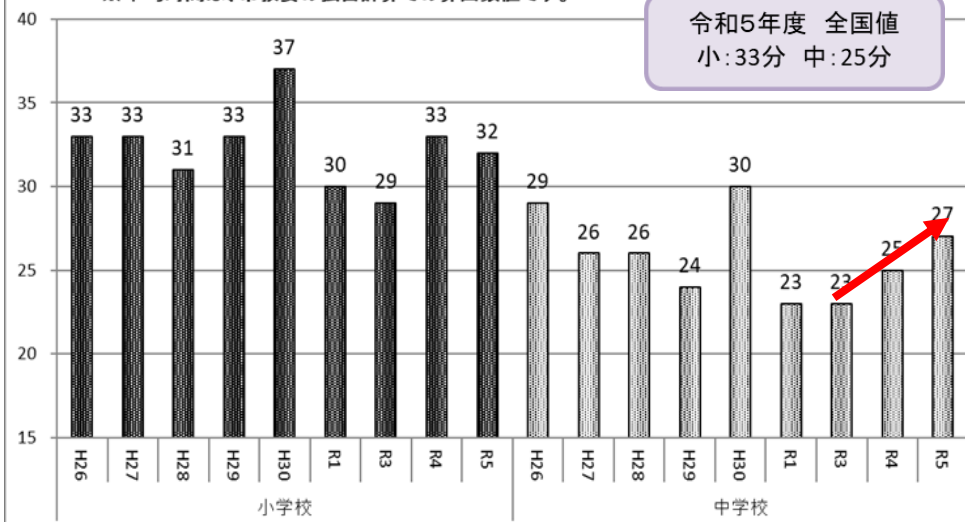
読書量と学力の関係は以前より指摘されています。問題を最後までしっかりと理解しながら読まなければ、問題を解くことが難しくなります。読書は、読解力を高めます。グラフ⑤は、平日における学校外の平均読書時間（分）です。小学校・中学校ともに全国平均と同じ程度ですが、中学校ではこの3年間増加傾向にあります。家庭での読書時間の確保に努めている成果であると考えます。

市教育センターでは、毎月第3日曜日を「家読（うちどく）の日」としています。ぜひ毎日でなくとも「家読の日」には、親子で本を楽しんでください。親子の会話も増えると思います。

また、休みの日などに、情報館に本を探しに（借りに）行くのもオススメです。読書の秋に楽しんでください。

グラフ⑤

平日における学校外の平均読書の推移（単位：分）
※平均時間は、市教委の独自計算での算出数値です。



学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～10・11月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
調査:10月30日(月) ～11月10日(金)	WEBQU(第2回)調査の実施	※その後全学校で事例検討会の実施
11月6日(月)	エキスパート教員研修(1)② 「子どもが学びに向かう力をつける授業づくり」～算数科・情報教育～ 【十日町小学校】	講師:十日町小学校 教諭 吉野 翔 様 対象:希望する全職員
11月14日(火)	第4回特別支援教育コーディネーター養成講座 「諸検査の活用」 【川西庁舎】	講師:ふれあいの丘支援学校 教頭 秦野 真一 様 千手小学校 教諭 小山 沙耶花 様 学校教育課 臨床心理士 稲見 泰明 対象:特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
11月16日(木)	人権教育、同和教育教職員研修会 【千手中央コミュニティセンター】	講師:県立西新発田高等学校 教諭 松本 英也 様 対象:教職員 市関係課職員
11月17日(金)	エキスパート教員研修(2)② 「集団心理を通じた良好な関係性形成に関する研究～生徒指導～」 【川西中学校】	講師:川西中学校 教諭 中沢 覚 様 対象:希望する全職員
11月24日(金)	第2回特別支援教育授業公開講座 【ふれあいの丘支援学校】	講師:上越教育大学大学院 教授 村中智彦 様 対象:特別支援学校教職員 特別支援教育コーディネーター
11月29日(水)	特別支援教育・基礎講座 「学校運営講座」 【川西庁舎】 ※ 会場が年度当初の予定から変更されています。	講師:川治小学校 校長 山川 和子 様 松之山小学校 校長 高橋 雅彦 様 水沢中学校 校長 上重 哲史 様 対象:管理職

【表紙写真の説明】

水沢中学校区は知・徳・体・特支の4部会に分かれて小中一貫教育を推進しています。体部部会の取組の一つとして「各小学校への乗り入れ授業」に取り組んでいます。中学校教諭が小学校に行き、低学年・中学年・高学年に向けてそれぞれ体育の授業を行っています。今年度の内容はコーディネーショントレーニングとSAQ（アジリティトレーニング）を行いました。

その際、小学校教諭も授業を参観し、映像を撮影するなど今後の授業に生かせるように研修を行っていました。中学校教諭が乗り入れ授業を行うことで、教科担任制のよさを実感することができました。

また、子どもたちが中学校に入学した後、安心かつスムーズに授業に取り組むことができるようになって感じています。